

J - クレジット制度管理者 御中

実績確認概要書

平成30年9月6日

審査機関名 ロイドレジスター クオリティ アシュアランス リミテッド

1. 排出削減事業計画の概要

排出削減事業名	A重油ボイラから木質バイオマスボイラへの更新プロジェクト
承認番号	KC0510
排出削減事業者名	加美町
排出削減共同実施事業者名	株式会社FTカーボン (その他関連事業者名：なし)
事業実施場所	やくらい交流施設 (住所：宮城県加美郡加美町字味ヶ袋薬菜原 1 番 76)
事業の概要	やくらい交流施設(やくらい薬師の湯(日帰り温泉)、やくらいウォーターパーク(温水プールと温泉)、やくらい林泉館(温泉宿)、やくらい都呂館(温泉宿))における A 重油ボイラ 5 基を木質バイオマスボイラ 4 基へ更新する。木質バイオマスを使用することによって、CO2 排出量を削減する。
排出削減量の計画	2010年度 1,232tCO2/年 2011～2012年度 1,260tCO2/年 2013～2017年度 1287tCO2/年 2018年度 28tCO2 (事業実施期間合計 10,215tCO2)
クレジット認証期間	開始日 2010年4月9日 終了日 2018年4月8日
排出削減方法論	方法論番号001: ボイラーの更新

2. 本実績確認の対象期間

2015年4月1日～2018年4月8日（第6回目実績報告）

3. 実績確認結果

本実績報告期間における排出削減量は、承認排出削減事業計画に従ってモニタリングされた結果に基づき算定されており適正である。

排出削減量	6,076tCO ₂ (2015年4月1日～2018年4月8日)
-------	--

4. 実施した実績確認手続きの概要

以下の実績確認手続きにより、報告された排出削減量に重大な誤りがないことを確認している。

要件	実績確認手続き
排出削減量が承認排出削減事業計画に従って実施した結果生じていること	排出削減量が、承認排出削減事業計画に従って当該計画を実施した結果生じている事を、以下の通り確認した。 1) 開始日の確認（初回実績確認の場合） 初回実績確認ではないので該当しない。 2) 対象期間中の設備稼働の確認 導入したボイラー設備は実績確認の期間中継続的に稼働していることを、本実績報告対象期間におけるバイオマス燃料の購入記録により確認した。□
排出削減量が承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されていること	排出削減量は、承認排出削減事業計画に従って実施され、算定されていることを確認した。 1) モニタリング方法の確認 関係者へのヒアリング、バイオマス燃料の納品書の確認等により、承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画通り、バイオマス燃料使用に関するモニタリングが実施されていることを確認した。 2) 活動量の正確性 関係者への質問、購買記録等の確認により、承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画通り、バイオマス燃料の購入記録、燃料の分析データ等の保存が適切になされており、正確に集計されていることを確認した。

	<p>3) 単位発熱量、排出係数等の確認 使用されている単位発熱量、排出係数等が、J-クレジット制度・モニタリング・算定規程(排出削減プロジェクト用)Ver3.2及び承認排出削減事業計画通りであることを確認した。</p> <p>4) 排出削減量算定方法及び算定結果の確認 事業実施後排出量、ベースライン排出量、リーケージ排出量、排出削減量の算定結果を根拠資料と突合、方法論の定めた計算式との照合、計算過程の確認、再計算等を実施した結果、排出削減量の算定結果が正確であることを確認した。</p>
<p>算定結果がクレジット認証期間の終了日を超えないこと</p>	<p>今回の実績確認対象期間は 2015年4月1日から2018年4月8日までとなっているが、J-クレジット制度への移行手続きにより、終了予定日は 2018年4月8日となっているため、クレジット認証期間の終了日を超えないことを確認した。□</p>

5. 承認排出削減事業計画からの重要な変更点についての評価

今回の検証において、承認排出削減事業計画から、木質バイオマスの単位発熱量のモニタリング方法を変更し、第三者機関の分析結果を使用するように変更した。第三者機関の分析結果は到着ベース基準で低位発熱量の値が表示されていることから、使用する事業実施前後のボイラ効率やA重油の単位発熱量あたりの二酸化炭素排出係数についても低位発熱量ベースの値を記載し、それに基づいて算定されていることを確認した。

また、ボイラ効率について、現地訪問の結果、従来のボイラ根拠となるカタログ値とは別に仕様書があり、ボイラ効率が若干異なっていた。そのため、保守的な値として仕様書の値を採用したことから、若干ボイラ効率が下がっている。

6. 特記事項

排出削減量に相当する再生可能エネルギー利用量について、熱量換算で 133,243 GJであることを確認した。

以上